

自己評価報告書

平成 23 年 2 月 8 日現在

機関番号：34428

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～ 2011

課題番号：20730460

研究課題名(和文) 中学生を対象としたコミュニケーション・スキル訓練の開発とその実践

研究課題名(英文) A Development of the Communication Skills Training for Junior High School Students

研究代表者

牧野 幸志(MAKINO KOSHI)

摂南大学・経営学部・准教授

研究者番号：00330762

研究分野：臨床社会心理学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：コミュニケーション・スキル，スキル訓練，心理学的介入，中学生

1. 研究計画の概要

本研究は、いじめ、不登校、友人関係などさまざまな問題に直面する中学生に対してコミュニケーション・スキル訓練を行い、対人コミュニケーションの観点から、問題が起こらないようにする予防策、起こってしまった場合の解決策を身につけさせようとするものである。本研究の目的は、中学生を対象とするコミュニケーション・スキル訓練のプログラムを開発し、そのプログラムを実際に中学生に実践し、問題予防行動、問題解決行動に役立てることである。従来、社会心理学の分野では「社会的スキル」の研究の中で対人間のコミュニケーションを円滑にするためのプログラムが開発されてきた。しかし、現在では、より広い範囲のコミュニケーション・スキルを研究することの必要性が指摘されている。また、現実の学校現場では、友人とうまくコミュニケーションの取れない生徒、先生とうまく話すことのできない生徒が増加している。このような理由から、中学生を対象としてコミュニケーション・スキル訓練を開発し、それを実践していくことが急務である。この訓練プログラムが開発され実施されることにより、学校現場における対人関係の問題に対する心理学的介入が可能となり、中学生の心身の成長に役立つと考えられる。

2. 研究の進捗状況

まず、青年期のコミュニケーション・スキル(CS)を測定する尺度作りを行なった。心理学分野の社会的スキル(SS)の先行研究より、社会的スキル尺度を参考として、より直接的、

対人的スキルを測定するコミュニケーション・スキル尺度を作成した。その尺度の信頼性と妥当性は非常に高いものであった。

次に、中学生を対象としたコミュニケーション・スキル訓練の開発を行った。開発したコミュニケーション・スキル尺度の内容を基に実際にスキルを身につけていくプログラムを開発した。その際には、社会的スキル訓練の先行研究も参考にした。その後、夏休み中に無作為に選ばれた少人数の中学生に対して訓練プログラムを実施した。大学生がスキル訓練のサポートを行った。訓練の結果、もともとコミュニケーション・スキルの低い生徒には1日(約5時間)の訓練の直後にもコミュニケーション・スキルへの促進効果がみられた。特に、会話スキルや関係構築スキルに促進効果がみられた。しかし、もともとコミュニケーション・スキルが高かった生徒に対しては天井効果がみられ、訓練による促進効果はみられなかった。2011年1月には、この訓練プログラムの効率を考え、30名程度のクラス単位で実施し、訓練の精度を確認している。

さらに、コミュニケーション・スキル訓練が自己評価(自己効力感、自尊感情)に与える影響を検討した。その結果、訓練後に参加者全員参加者の否定的気分は低下していた。しかし、肯定的気分、自己効力感、自尊感情に変化はみられなかった。また、個々人の変化を検討した結果、半数の参加者の肯定的気分が上昇し、ほぼ全員の否定的気分が低下していた。今後は、これらの訓練プログラムを小学生にまで拡大し、コミュニケーション・スキル訓練を各学校に広めていく予定である。

3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。

2011年度は、開発したコミュニケーション・スキル訓練の効果測定を行い、プログラムを他の中学校においても実施していく計画であったが既に2010年度に実施した。また、成果の論文化も既に行われた(牧野, 2009a, 2010a, 2010b)。本研究は当初の予定より早めに展開してきた。この理由として、予想以上に地域の公立中学校からの調査協力が得られた点、地域の中学校の連携が取れ、スムーズに訓練が行われた点、夏休みなどの休みを利用して、論文化が行われた点があげられる。

4. 今後の研究の推進方策

この研究は当初の予定より早めに展開してきた。最終年度に実施予定であった中学校での訓練も2010年度中に実施した。その一方で、中学生のコミュニケーション・スキルを調べ、訓練していくうちに、中学生になる以前からスキルが低い、あるいはスキル不足であったのではないかという発達の課題を持つ生徒がいること、より早い段階での訓練の必要性、小学校からのコミュニケーション・スキル訓練の依頼などがあり、児童・生徒双方を対象とするコミュニケーション・スキル訓練の開発が不可欠と考えるようになった。したがって、より研究を拡大することとした。具体的には、小学生を対象としたコミュニケーション・スキル訓練の開発を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

牧野幸志, 中学生を対象としたコミュニケーション・スキル訓練の開発(1) 中学生のコミュニケーション・スキル, 精神的健康の学年差の検討 経営情報研究, 17, 1-16, (2009), 査読あり

牧野幸志, 中学生を対象としたコミュニケーション・スキル訓練の開発(2) 中学生と大学生のコミュニケーション・スキルの比較 経営情報研究, 17, 35-43, (2010), 査読あり

牧野幸志, 中学生を対象としたコミュニケーション・スキル訓練の開発(3) 中学生に対するコミュニケーション・スキル訓練の効果 経営情報研究, 18, 1-9, (2010), 査読あり

牧野幸志, 中学生を対象としたコミュニケーション・スキル訓練の開発(4) コミュニケーション・スキル訓練が自己評価に与える影響 経営情報研究, 18, 107-118,

(2011), 査読あり

[学会発表](計6件)

牧野幸志, 中学生を対象としたコミュニケーション・スキル訓練の開発(2), 日本心理学会第73回大会, 2009年8月27日, 立命館大学

牧野幸志, 中学生を対象としたコミュニケーション・スキル訓練の開発(1), 日本臨床心理学会第28回秋季大会, 2009年9月21日, 東京国際フォーラム

牧野幸志, 中学生を対象としたコミュニケーション・スキル訓練の開発(3), 日本社会心理学会第50回大会日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会合同大会, 2009年10月10日, 大阪大学

牧野幸志, 青年期のコミュニケーション・スキルと対人関係, 日本グループ・ダイナミクス学会第57回大会, 2010年8月29日, 東京国際大学

牧野幸志, 中学生を対象としたコミュニケーション・スキル訓練の開発(4), 日本臨床心理学会第29回秋季大会, 2010年9月3日, 東北大学川内北キャンパス

牧野幸志, 青年期のコミュニケーション・スキルと恋愛関係, 日本社会心理学会第51回大会, 2010年9月18日, 広島大学

[図書](計2件)

牧野幸志, 風間書房, 説得に及ぼすユーモアの効果とその生起メカニズム, 2010, 総ページ数194ページ, 単著

牧野幸志, ミネルヴァ書房, 心理学研究の新世紀 第2巻「社会心理学」, 第1部 第6章 説得におけるユーモアの機能, 2011, 総ページ数150ページ, 印刷中, 分担執筆